

◇ 鷲羽岳・水晶岳

2018年9月17日(月)～19日(水) 岡本単独

今年の9月は天気が悪い。天気図と睨めっこして、悪天候の合間を縫って北アルプスへ行く。9月10日前後に嶋原さんと赤牛岳へ行く予定が流れたこともあり、1日行程をカットし新穂高から水晶岳まで往復することにした。

朝3時過ぎに自宅を出る。8時頃に登山者無料駐車場に車を置き、登山口まで歩き、登山届けを出す。準備や登山口までの歩きもあり、登山開始は8時半を過ぎていた。天気は曇り、登るには丁度良い天気だ。

お馴染みのコースで特に何とすることも無く、ひたすら歩くだけだ。ただ、鏡平から双六小屋まで、槍穂の岩稜がちらっとしか見えなかったのは残念だ。その代わり雷鳥のお迎えを受けたのでま



(雷鳥)



(夕焼けの鷲羽岳)

ずは良しと言うことか。双六小屋に着く頃には天気も大分回復し、夕焼けの鷲羽岳も眺めることもでき、まあまあの一日だった。

≪1日目行程≫ 8:35 新穂高登山口→9:40 わさび平→10:40 秩父沢出合→11:40 シシウドヶ原→12:15 鏡平(20分休)→13:25 弓折乗越→14:20 双六山荘

2日目は、双六小屋から水晶岳まで行き、三俣山荘まで戻る計画。まず巻道分岐で中道コースを取り、丸山から三俣蓮華岳に登り、三俣小屋・鷲羽岳・ワリモ岳を通り水晶小屋まで行く。小屋から水



晶岳をピストン。出来るだけ重複コースを減らすため、岩苔乗越から黒部源流に下り、源流から三俣小屋まで登る。天気は最高だったが、昔と違い、中々思う通り歩けない。何とか予定通り踏破するが結構疲れた。源流から三俣蓮華岳や祖父岳を望むと、だいぶ秋らしい色合いになっている。



写真、左上から、1.丸山付近から黒部五郎岳、2.三俣蓮華岳から左手前爺岳。奥、水晶岳・ワリモ岳・鷲羽岳、3.三俣峠から水晶岳・ワリモ岳・鷲羽岳、4.鷲羽岳山頂付近から正面三俣蓮華岳・右黒部五郎岳、5.鷲羽岳山頂手前から槍・穂高岳、6.ワリモ北分岐から岩苔乗越・黒部源流(見た目より苦戦、時間要する)





写真左上から、1.水晶岳山頂手前、
2.水晶岳から左立山・中央黒部湖・
右後立山から立山・黒部湖・後立
山、3.水晶小屋付近から水晶岳へ
の稜線・奥は立山、4.ワリモ北分岐
付近から見た薬師岳

《 2 日目行程 》

6:00 小屋発→6:15 巻道分岐
→7:35 三俣蓮華岳 (休) →
8:20 三俣小屋 (40 発) →9:45
鷲羽岳→10:25 ワリモ岳→
11:15 水晶小屋 (休) →11:55
水晶岳→12:30 水晶小屋 (50
発) →13:30 岩苔分岐→14:25
黒部源流→15:00 三俣小屋



三日目は三俣小屋から新穂高までの下山だ。曇るかと思っていたが、快晴でもう一日いたい気分になる。小屋からのご来光は野口五郎方面からだが、少し雲が掛かりイマイチであった。槍穂は逆光で少し見辛い。

今日の行程は、小屋から三俣峠まで行き、巻道ルートで双六小屋まで行き、後は登りと同じ鏡平経由の新穂高だ。三俣峠までは少しきつい登りとなるが、後はアップダウンの登りはあるが、それ



ほどきつい登りはない。

ただ、双六小屋までの巻道コースは、お花畑は多いものの、他の二つと比べさほど楽と言うわけではない。後は午前中にこのルートを取ると、鏡平までの素晴らしい槍穂の岩稜が逆行で映えない。



しかし、夏は夏で午後には曇ることが多く、中々良いタイミングで歩けないのが難点だ。そして、

写真左上から、1.双六小屋と鷲羽岳、2.弓折乗越付近から笠ヶ岳
3.弓折乗越付近から焼岳・乗鞍岳・かすかに御岳、4.お馴染みの鏡平からの槍穂

いつもながら、小池新道分岐から新穂高までの林道、泣かされる。

《 三日目行程 》 6:00 三俣小屋→6:35 三俣峠→7:55 巻道分岐→8:05 双六小屋 (15 分休) →9:20 弓折乗越→9:50 鏡平小屋 (15 分休) →11:25 秩父沢出合→12:10 ワラビ平→13:10 新穂高